

生命科学研究科学学位審査基準

【博士前期課程】

1. 博士前期課程の学位を授与されるためには、通算2年以上在学して研究指導を受け、専攻科目について所定の単位数を取得するとともに、本研究科が行う論文審査に合格することが必要である。但し、特に優れた研究業績を挙げた者に関しては、所属専攻における審査を経て、1年以上の在学をもって学位の授与を認めることがある。

2. 博士前期課程修了の要件として、ディプロマポリシーに掲げる能力を身につけていることが求められる。

3. 博士前期課程の学位の審査基準は、以下の通りである。

(1) 学位論文の研究内容は、申請者本人が自らの研究活動で得たもので、当該研究分野において新規の結果であること。

(2) 学位論文は、申請者自らの文章で、研究の背景、目的、結果と考察が日本語または英語の文章と図表等で明確に、かつ論理的に記述されてること。

(3) 学位申請者は、自身の研究結果を審査会において発表し、その内容に関する質疑に対する的確に応答すること。

【博士後期課程】

1. 博士後期課程の博士学位を授与されるためには、通算3年以上在学して研究指導を受けるとともに、本研究科が行う博士論文審査に合格することが必要である。但し、特に優れた研究業績を挙げた者に関しては、所属専攻における審査を経て、修士課程と合算して3年以上の在学をもって博士学位の授与を認めることがある。

2. 博士後期課程修了の要件として、ディプロマポリシーに掲げる能力を身につけていることが求められる。

3. 博士後期課程学位の審査基準は、以下の通りである。

(1) 学位論文の研究内容は、申請者本人が自らの研究活動で得たもので、当該研究分野において新規の結果であること。

(2) 学位論文は、申請者自らの文章で、研究の背景、目的、結果と考察が日本語または英語の文章と図表等で明確に、かつ論理的に記述されており、また関連の先行研究については適切に参照されていること。

(3) 論文の主論旨に独創性があり、新たな事象の発見や未解明の基本的原理の解明など当該研究分野の学術的発展への貢献、もしくは新しい研究手法や装置開発などを通じた当該研究分野や社会への貢献が認められること。

(4) 学位申請者は、当該研究分野の専門知識に加えて関連分野の基礎的な知識を身につけており、また最先端の研究技術を理解していること。

(5) 学位申請者は、公聴会において自身の研究成果をわかりやすく簡潔にまとめて発表し、その内容に関する質疑に対して的確に応答すること。

(6) 学位論文の内容またはその一部が、査読付きの世界的な専門論文誌に1編以上、原著論文として発表されていること。また、発表論文に含まれる研究結果が複数の研究者の共同による場合は、学位申請者の貢献が顕著であること。